

スーパーバイザー：鳴門教育大学大学院 村川 雅弘 教授

1 はじめに

現在の社会が求める能力は21世紀を生き抜く21世紀型能力であり、これからの小学校教育で育てるべきは、「自分の考えを持って他者と話し合い、比較・統合し、新しい知識をつくり、次への問いを見つける力」に他ならないと考える。本校は昨年度まで、自分の考えを持ち、他者に表現する力を育成するべく国語科を中心として言語活動を研究・実践するとともに、特別活動の話し合い活動を中心にしながら自治的活動を研究・実践してきた。また、昨年度から、鳥取市の「未来のとっとり教育創造事業」における地域創造学校の指定を受け、地域と学校との連携をより深めている。

本年度はそうした土台の上に、総合的な学習の時間ならびに生活科において、地域社会や実生活における課題を発見し、友だちと比較・検討しながら考えをまとめ、よりよい地域社会となるよう地域や保護者へ働きかけることを通して21世紀型能力の育成を図っていきたいと考え、本テーマを設定した。

2 研究のねらい

- ① 地域との関わりを深めることのできる地域教材を開発することによって児童の地域を愛する心を養う
- ② 探究的な授業づくりを進めることによって児童の主体的で協働的な学ぶ力を高める

3 研究内容

(1) 児童が地域との関わりを深めることのできる地域教材の開発

① 総合的な学習の時間の教育課程の見直し(身につけさせたい力・地域単元の内容・学年への配当)

まず、生活科と総合的な学習の時間の6年間で身につけさせたい力と各学年のテーマとを意識して「総合的な学習の時間で21世紀型能力をつけるための6年間の学び」をまとめ直した。(右図)

身につけさせたい力は「課題を見つける力」「追求する力」「表現する力」「振り返る力」として設定しており、6年間の学びには系統性を考えて各学年の具体的な姿を現した。また、学習のテーマを学年ごとに設定し、3年生は「地域・自然」、4年生は「福祉」、5年生は「環境・産業」、6年生は「歴史・文化」に関わる地域単元の開発に取り組んだ。

学年	21世紀型能力(身につけさせたい力)	各学年のテーマ	地域単元の内容	学習の姿	学習の時間	学習の場
1	課題を見つける力	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」
2	課題を見つける力	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」
3	課題を見つける力	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」
4	課題を見つける力	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」
5	課題を見つける力	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」
6	課題を見つける力	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」	生活科「生活のなかの生活」

② 簡易単元構想図をもとに価値ある教材であるか吟味

地域教材の開発に当たっては、まず、簡単な単元構想図を作成し、本校の地域教材の条件「米里のよさや価値、課題に気づくことができる。」「米里地域の方々と関わり、思いや願いや取り組みが分かる。」を元に吟味した。また、実際に実践可能かどうか(授業時数、学習環境、指導体制、各教科等との関連等の)多様な視点から検討した。

詳しい単元構想図を作成する際には、学習指導要領の解説にも示されている「探究的な学習における子どもの学習の姿」の4つのステップ「課題の設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」を意識し、構想図の中に示すようにした。

### 簡易的単元構想図作成

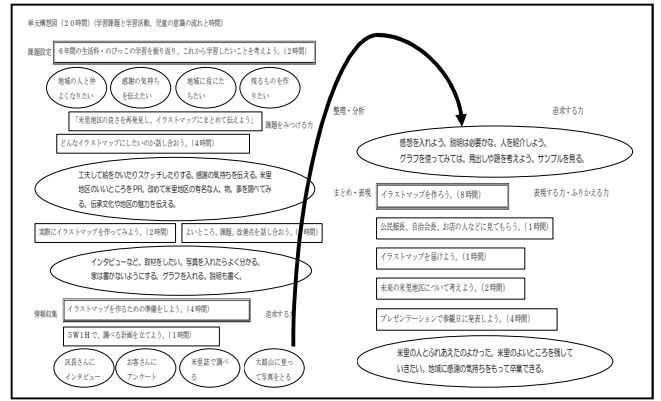
教材化の意義や可能性を吟味

<p><b>米里の地域教材開発の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米里のよさや価値、課題に気づくことができる。</li> <li>・米里地域のかたがたと関わり、思いや願いや取り組みが分かる。</li> </ul>	<p><b>実現可能であるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時数、学習環境、指導体制、各教科等との関連等</li> </ul>
--	--

### ③ 単元構想図の完成

右図は本年度完成させた6年生の地域単元の構想図である。「タイトル」「学習の課題として挙げられること」「大まかな活動」「探究的な学習における4つの子どもの姿」「活動に関連すること」を項目としてあげた。来年度は、これに実践した際の児童の反応を「予想される児童の反応」として加え、さらに課題に対する児童の思いなどを加えたりして単元構想図を完成させたいと考えている。

そして設定したねらいに沿った学習となりうる部分はどこまでなのか、子どもたちの望みや、求めをどこまで受け入れて構成していけばよいのかを考え、単元構想図を完成させたいと考えている。単元を構想するひとつの手段としてこの「活動予想図」を作ってみることが、広がりのある単元構想や十分な準備をして取り組む授業づくりにとって重要な作業である。



## (2) 探究的な授業づくりの推進

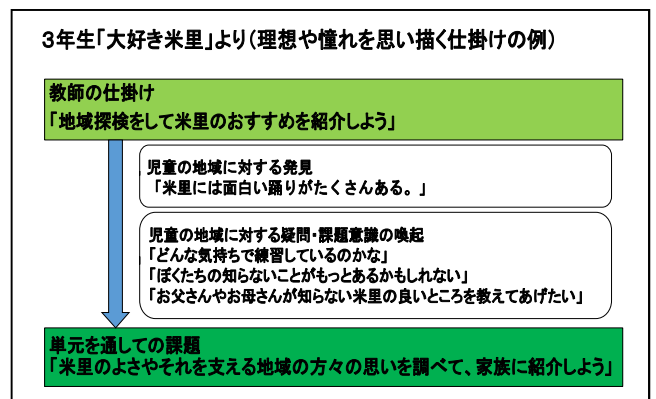
身につけさせたい力を児童が身につけることができるようにするために教師は、「探究的」で「協働的」な学習づくりに努めなければならない。そこで、「探究的な学習における子どもの学習の姿」の4つのステップと各ステップにおける重点を意識して授業づくりを行った。

### ① 課題設定

#### ●課題設定への仕掛けを設定する

児童が探究的に学習を進めていくためには、児童の学習に対する意欲が持てるような課題を、自分たちで発見していくといった過程が必要である。そこで、教師は、「知りたい」「守りたい」「伝えたい」「表したい」といった気持を引き出すための課題設定への仕掛けを設定する。

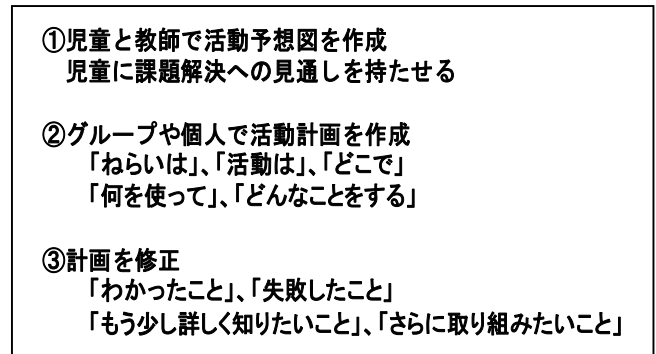
右の図は3年生の「大好き米里」における教師の仕掛けから課題設定までの過程を表したものである。課題設定の仕掛けとして、「地域探検をして米里のおすすめを紹介しよう。」ともちかけ、地域のよさや地域の人々に思いが向くようにした。実際に地域を探検した後、紹介し合う活動の際には、「米里には面白い踊りがいくつもあるんだね。」「ぼくたちが知らないことがもっとあるかもしれないからもっと調べてみよう。」と話し合い、地域の人々の思いについて考えようとする課題意識も見られた。さらに「米里のいいところをもっと知りたい。」「家族が知らない米里のいいところやおもしろいところを教えてあげるために調べたい。」という方向に話が進んでいった。こうして、「米里のよさやそれを支える地域の方々の思いを調べて、家族に紹介しよう」という学習課題ができあがった。



### ② 学習計画

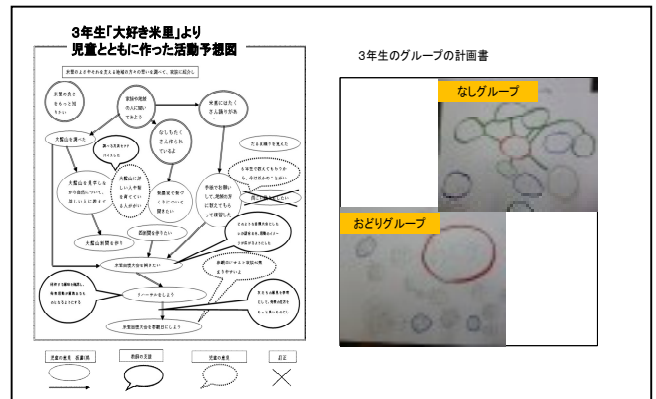
#### ●児童と教師で活動予想図を作成する

総合的な学習の時間において、児童自身が活動への見通しをもつということが学ぶ楽しさを味わうために重要なポイントとなる。見通しを持つことができれば、課題への迫り方が具体的で追求力の強いものになると考える。そこで、課題を設定した後、児童と教師と一緒に活動予想図を作り、大まかな学習の流れを全員で確認してから、児童個々、あるいは、グループで計画を立てるように取り組んでいく。



3年生の「大好き米里」では、課題を設定した後、右図のような活動予想図を作成した。右側は、全体の計画をもとに作成した各グループの計画である。グループで計画する場面では、「活動は」「どこで」「何を使って」「どんなことをする」などを示させ、教師が点検をして賞賛をしたり、アドバイスをしたりして具体的な計画となるようにした。

左は各グループの計画の一部である。「おどり」グループでは「どうして、雨乞い踊りができたのか聞いてみたい。」「そらまめ音頭は地域の方に聞くといいそうだ。」と自分たちの調べたいことと方法を考えたり、人材を教えてもらったりしながらまとめていった。児童の学びや考えを生かし、必要に応じて、児童と話し合い、計画を修正していくように考えた。



### ③ 情報収集

#### ●地域の（ヒト・モノ・コト）と関わりを深めることができるように情報収集の方法や場の設定を支援する（コミュニティースクール・人材バンクの活用）

情報収集は地域との関わりを深めるためのステップである。児童は地域の方から情報を収集し、地域のことを知る中で地域とのかかわりを深め、地域の一員としての意識が高まる。地域の方は子どもたちが地域を身近に感じ、誇りを持っていくことを喜ばれる。こうした関係を深めていくことが地域教材開発の目的を達成することになる。そのために学校支援ボランティアのコーディネーターの協力を得て、人材バンクを作成した。児童が困っているときには、人材を児童に紹介したり、調査方法を紹介したり、場を設定したり、支援したりしていくことが教師の重要な役割であると考えている。

3年生の「大好き米里」では、「米里のよさやそれを支える地域の方々の思いを調べて、家族に紹介しよう。」という課題解決に向けて、自分の家のおじいさん、おばあさんに聞く子もいたが、自分たちが調べられる範囲は限られており、困っていた。そのとき、担任は、情報をもっている人に聞く、地域の専門職の人に頼む等の手立てがあることを知らせた。「実際に動かしてもらうと、機械の使い方がよく分かるな。」「一緒に踊ると楽しいな。」と少し後押しすることで、より積極的にかかわろうとする姿が多く見られた。また、「地域の方に聞いたらたくさん教えてもらえてうれしかった。」「完ぺきに踊れるようになったから見に来てください。」など調べる時にお世話になった人に招待状やお礼の手紙を出すなど、その後も関わりを深めることになった。



### ④ 整理・分析

#### ●ツールを使って情報を整理・分析するスキルを養う

整理・分析のステップでは必要な情報の取捨選択や優先順位（価値付け）を行い、課題解決に迫っていく力を身につけさせることがねらいである。達成するためには、整理・分析のスキルを高めていくことが重要であると考えている。本校の児童には、こうした方法を指導し、身につけさせていくことが、必要であると考えている。

- ・表やグラフにして、情報を比較し分析する（グラフ、表など）
- ・分解して情報を分析する（シンキングツリー、ウェビングなど）
- ・時間軸をもとにして情報を分析する（年表）
- ・流れにして情報を分析する（チャート、計画表など）
- ・可視化し、操作化して、情報を整理し、分析する（マトリックス・K・J法など）

6年生の「イラストマップで米里地区の魅力をたくさんの人に届けよう」では、各グループが作成したイラストマップの下書きを見て、ほかのグループの友達から良い点、課題、よりよくするための改善点についての意見を付箋に書いた。付箋を集約し、分類しながら、よりよいイラストマップを作るために改善点を検討していった。付箋を集約することで課題や改善点が焦点化されていった。



## ⑤ まとめ・表現

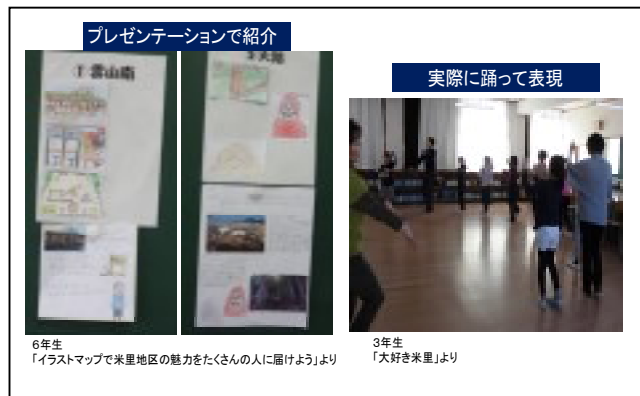
### ●相手意識や目的意識を明確に持たせ、内容や表現方法を吟味させる

学習の4つ目のステップである表現では、相手意識や目的意識を明確に持ち、内容や表現方法を吟味する必要がある。表現方法は、国語をはじめとする、他教科の学習と関連させていく必要があると考える。

3年生の「大好き米里」では各グループが、参観日に家族や地域の方に向けて発表することを意識して、写真やポスター、実際の踊りの披露、人形劇といった方法で紹介するように決定した。

踊りグループは地域の方に教えてもらいながら練習し、振り返りには、「やっぱり上手だなあと思った。」「直接教えてもらうとよく分かる。」といった感想を書いていた。

6年生の「イラストマップで米里地区の魅力をたくさんの人に届けよう」では、国語科で学習したプレゼンテーションによる提案の仕方を活用し、プレゼンテーションの構成を意識しながらプレゼンテーションを作成した。完成したプレゼンテーションを使って、参観日には、保護者や地域の方に発表した。



## 4 地域創造学校との連携

本校は、鳥取市の「未来のとり教育創造事業」における地域創造学校の指定を受けており、児童の学習支援の場として設置している「放課後子ども教室」など、地域の人材を活用し、教育効果を高めるシステム作りに取り組んでいる。こうした取り組みの一つとして、学校支援ボランティアのコーディネーターの協力を得て、人材バンクを作成している。下は、その一部である。

分類	活動内容	登録者氏名	活動内容に関連する保有資格又は経験等	居住地区
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、宿題の手助け等をする。(様子を見たり、褒めるだけでも結構です。)			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、宿題の手助け等をする。(様子を見たり、褒めるだけでも結構です。)			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、宿題の手助け等をする。(様子を見たり、褒めるだけでも結構です。)			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、音読等の支援をする。			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、音読等の支援をする。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、音読等の支援をする。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、読書の見守りをする。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、読書の見守りをする。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、かけ算九九の指導をする。			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、かけ算九九の指導をする。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、かけ算九九の指導をする。		教員免許	雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、習字を指導する。		書道教師、米里小非常勤講師経験	久末
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、手芸を指導する。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、調理を指導する。			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、調理を指導する。			雲山南
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、図画を指導する。			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、工作を指導する。			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、外遊び(体育館を含む)を支援する。			東雲山
放課後子ども教室関連	放課後子ども教室において、外遊び(体育館を含む)を支援する。			雲山南
放課後子ども教室関連	その他(手話の指導)		40年	雲山南

## 5 スーパーバイザーによる指導助言

### ●教師のカリキュラムマネジメントを行う

#### (1) 年間指導計画の見直し

- ①全体で重なりや系統などを見直す
- ②本年度の単元構想図に付箋を貼って評価し、来年度改善ができるようにしておく
  - ・総合的な学習の時間の視点（体験活動はどうであったか、教科との関連はどうであったか等）で行う
- ③来年度の初めにフィールドワークを行って引継ぎをする。
  - ・新担任はウェビング等を行い、自分の単元となるよう修正し、実践する

#### (2) 単元の見直し

\*育てたい資質・能力に対する評価の3つの柱に沿って単元を評価する

- ①児童がどんなことを理解し、どんな力がついたか
  - ・どんなことができるようになったか
  - ・なぜできるようになったか
- ②児童の学び方はどうであったか
  - ・4つのステップはどうであったか
  - ・思考ツールの活用などはどうであったか
- ③学びに向かう力
  - ・学んだことを生活や将来に生かそうとしているか

### ●児童も学びのマネジメントを行う

- (1) 1年間の総合的な学習についての振り返りを行い、自己の成長を自覚し、来年度の見通しを持つ  
+児童の振り返りを地域の方（学習ボランティア）や保護者に聞いてもらう

\*学びのメタ認知→評価とつないでいけるよう、年間指導計画に位置づけPDCAを行う

#### (2) 単元の見直し

\*来年度は単元ごとに児童が1)のような自己評価を行い、年間で蓄積しておく

### ●地域創造学校の取り組みにより、地域の力を活用し、教師の仕事を精選する

- ・学校の取り組みの方向性のグランドデザインを地域・保護者に配布し、意見を集約する

## 6 研究のまとめ

### (1) 成果

- ・年間指導計画の見直しができる
- ・各担任が地域に出かけ、聞き取りや見学などによって教材研究を行い、地域をよく知ることができた
- ・単元構想図を基に「課題作り（課題設定）」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つの過程を意識して授業実践を行うことができた
- ・地域教材に力を入れたことで、児童が興味を持って楽しみながら学習を進めることができた
- ・児童が地域の方と今まで以上に関わりを持つことができ、地域のよさを深く知ることにつながった

### (2) 課題

- ・各学年のテーマの系統性や整合性を明確にする
- ・本年度の取り組みをもとに、単元構想図のレベルアップを図る
- ・児童の「話す・聞く」「整理・分析」などのスキルを高める

## 6 おわりに

本年度、鳴門教育大学の村川雅弘教授に「地域社会に開かれた総合的な学習の時間・生活科の学習づくり」について指導していただき、教材についての考え方や探究的な学習を仕組んでいく教師の役割について多くのことを学ぶことができた。

学習が始まると自分たちで活動の場をセッティングし、自主的な雰囲気の中で、グループで話し合いをしながら生き生きと活動する児童の姿が多くみられ、「米里って面白いところがいっぱいある。」「米里の人たちがどう考えているか、もっと調べてみたい。」と地域に対する関心の高まりも見られた。本年度の取り組みをさらに深め、主体的に探究する力を育てるとともに、「米里っていいなあ。」「米里をもっとこうしていきたい。」と地域を愛する心をさらに育てていきたい。